

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム みどりの里 (西ユニット)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100060		
法人名	株式会社 藤森		
事業所名	グループホームみどりの里 西ユニット		
所在地	〒028-7911 岩手県九戸郡洋野町種市第40地割22番地2		
自己評価作成日	平成 22 年 9 月 5 日	評価結果市町村受理日	平成 23年 1月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0393100060&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成22年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑が豊かで自然に恵まれた環境にある。海も近く、海沿いの道を気持ちよくドライブできる。地域の方々のご協力により、敷地内に畑を作っている。利用者も職員も一緒に畑仕事を行い、交流を図っている。
また、職員は業務より利用者との関わりを優先できるよう、支障がでた場合は常に話しあう場を持っている。利用者にとって、ここでの生活が安心して穏やかなものになるよう、日々取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内には同法人のデイサービスセンターが併設されており、ホームは東と西に区分されるが一戸建ての平屋で利用者が自由に行き来できる構造となっている。また、介護保険対象外で宿泊ができる「予備室」を独自に設置し、必要に応じた利用ができる環境にあることに伴い、夜勤は職員3名配置されており心強い。開所して間もないが、管理者は利用者が地域の一員として安心して暮していくためには地域の協力を得ることが大切であるとして自治会に加入し、活動に積極的に参加しホームの理解に努めており、職員は気軽に話し合える環境づくりに配慮し生き生きとして支援に取り組んでいる。利用者の表情は明るく東と西のホームを自由に行き来し交流している様子が随所で窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム みどりの里 (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念はまだ作っておらず、早急に検討していきたい。	現在、独自の理念をつくるため職員同士で話し合いを進めており、早急に定例会議で決定し実践に繋げたいとして取り組んでいる。	理念はサービス提供のよりどころとなるものであり、安心して暮せるホームづくりのためにも、地域密着型サービスの意義や役割を考え、実践されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校行事や、地区のイベントに参加している。地域の方のご協力で敷地内に野菜を作り、交流を図っている。	散歩時に挨拶を交わしているほか、近所の人が畑の野菜作りの手伝いに加わっていたり、自治会に加入し小学校の交流事業に地区民と一緒に参加したりして、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談や見学に来られた方には、希望があれば認知症についての説明をパンフレット等で行い、認知症の人の理解や支援につながるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出たサービス向上に向けての改善案は、事業所内で検討・実践を行い、次の会議にて報告している。	民生委員2、地区代表2、家族代表1、地域包括センター1と委員を委嘱し開催している。会議では、行事の内容や利用者の状況について報告し「地域の協力が必要だ」との意見など運営に反映している。	会議はホーム運営の要であり、地域の方が協力者として助言する機会でもあることから、ホームの課題を提供し委員が積極的にかかわれるよう会議を活かした取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より、役場担当者や、地域包括支援センターと連絡を密にとり、状況を報告。大いに協力して頂いている。	毎月開催されるケア会議に出席し情報交換したり、介護認定などの書類作成について相談したりして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠はしていない。疑問が出た時は、その都度確認しあい、身体拘束のないケアを目指している。	身体拘束の弊害について管理者・職員とも理解している。なお、個別のケア対応で疑問が生じたときは皆で話し合うこととしお互いに理解を深め、疑問を解消することを基本として取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、定例会議等で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に研修会に参加している。また、必要時は円滑に活用できるよう、地域包括支援センターに協力をお願いしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書と口頭で説明を行い、理解・納得を得ている。相手の立場になって、丁寧でわかりやすい説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見・要望は、日常の関わりの中で把握するよう努めている。運営推進会議や面会時、ケアカンファレンスの際に、家族の意見・要望を聴いている。	利用者との散歩やドライブ、日々の関わり、また家族の面会時や医療受診時など様々な機会に意見等を聞いている。最近では推進会議で「レク活動について昔の経験を活かすようにしては」との意見があり、相談しながら運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が自由に意見を言える雰囲気作りに取り組んでいる。随時管理者に意見が寄せられる。また、月1回の定例会議では、全職員が意見交換や提案を行える場となっている。	申し送り時や利用者を交えてお茶を飲みながら実施するミーティングを活用したり、定例会議を通して意見や提案を聞く機会を設け運営に反映している。また、普段から相互に言い合える雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすくやりがいを持てる職場を目指している。代表者・管理者は職員の希望する勤務条件にできる限り応えている。また、処遇改善交付金の活用、資格手当・夜勤手当・賞与の支給に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修の参加を促し、研修結果を報告しあっている。希望があれば、働きながら資格取得できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県認知症高齢者グループホーム協会に加入し、様々な情報を頂きながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者本人の不安や要望を伺い、それを職員で共有してからのサービス開始としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と面談を行い、入所を希望した経緯や、これから望むこと聴いている。入所してからも家族の協力は必須なので、家族との関係は大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話の中から、必要としている支援を見極めている。担当の居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとも相談し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活の場であることを第一に考え、調理や後片付け、清掃や洗濯等を職員と協力して行えるよう、日々工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとっても職員にとっても、家族の協力は大切なものであり、必要時は電話で相談する、来訪時に伝える等している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内のドライブや商店街への買い物へ出かけている。また、家族だけでなく友達や知人の方も気軽に来て頂けるような、明るく開放的な雰囲気作りを心掛けている。	家族の協力を得ながら、今までの理・美容院を利用したり、買い物では行きつけのスーパーを利用したり、老人クラブや近所の方々が遊びに来たりしており、馴染みの関係が継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各々の生活や、その時の心身の状態の把握に努めており、必要時は、職員が介入・橋渡しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期化して退所された方のところへ面会に訪れたり、家族より近況を伺って、今後のことを相談し合ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の立案にあたって、本人の思いや意向を確認している。また、日々の生活の中での把握に努めている。	日ごろの会話、散歩やドライブ、行事等の機会を利用して本人の思い等の把握に努めているほか、日常の何気ない会話や行動、表情などで職員が気付いた情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より話を伺ったり、担当のケアマネジャーより情報提供をして頂いたりして、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝と夕の申し送りで利用者の現状を確認しあっている。本人や家族の気持ちや意向の変化にも柔軟に対応できるように、日々把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を確認し、計画作成担当者と担当介護職員が、介護計画の原案を作成。カンファレンスで更に検討し、完成させている。	事前に原案を作成し、本人と家族が参加するサービス担当者会議で話し合い検討したうえで介護計画を作成している。また見直しは6ヶ月ごとに行っており、モニタリング時の利用者と家族の満足度を加味して計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録は残しているが、生活の記録にすぎず、ケアの実践・結果、気づきや工夫を記入するところまでは、至っていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や外出・外泊時の送迎は、原則家族に対応して頂くこととしているが、家族に事情があり困難な場合、できる限りこちらで対応している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で委員の方々に意見を頂いている。また、地域のイベントや学校行事に参加している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する病院に通院している。健康状態で気になることは家族へ伝え、受診時にかかりつけ医に相談して頂いたり、受診に立ち会ったりしている。	本人・家族が今まで利用していたかかりつけ医としているが、急変の場合は協力病院の受診となることから契約時に説明して了解を得ており適切に受診できるよう努めている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が介護職員として勤務している。身近で同じ仕事をする為、他の介護職員は相談しやすい環境にある。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はなるべく面会へおもむき、病院関係者との情報交換や相談に努めている。退院後のケアについても、助言を頂いている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化がみられてきた場合は、本人、家族と今後の方針について話し合っている。かかりつけ医にもできる限り協力を頂いており、チームでの支援に取り組んでいる。	状態の変化により、早期に家族と相談しながら医療と連携し、ホームで出来る支援について家族と相談し対応していくことを話し合っている。また、重度化の支援対応のため職員が研修に取り組んでいる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応を月に一度の定例会議で確認しあっている。また、急変の恐れのある利用者がある場合は、朝・夕の申し送りでもシュミレーションし、緊急時に備えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春に一度避難訓練を行い、日中の設定で利用者と職員のみで行った。秋に二度目を計画しており、地域の方にも参加頂く事で調整している。	地域の協力体制は、現在婦人消防協力隊と相談中であるが、運営推進会議に話題として委員の協力を得ながら進めることも一考と思われるので、今後の取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての利用者の尊厳を守るよう心がけている。適切な声かけができるよう日々工夫し、対応している。	小さい声で「用事があるので…」などとトイレ誘導したり、また食事中、隣の人が食べてしまった時は「私も食べたかったのに…」などと、プライバシーや誇りを損ねない言葉かけに留意しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人から話を伺ったり、示す態度や表情が何を意味するのかを考えたりして対応にあたっている。利用者が自分の気持ちを表現しやすいよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく利用者のペースで一日を過ごせるよう取り組んでいる。利用者のその日の気分で、入浴や、お散歩、畑仕事や外出ができる限り行えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を第一に、好みの服装で過ごしてもらっている。愛用の化粧品がある方は、使い続けていけるよう、家族にお願いして常備して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に利用者と職員が、協力して食事の準備・調理・後片付けを行っている。一人ひとりの力に合わせて役割を見つけ出し、男性の利用者も準備や後片付けに参加されている。	収穫した野菜等を食材として料理したり、食事の準備では調理や、野菜刻み、茶わん拭きなど役割を持って行っている。食事は職員も一緒に座り話題を提供し賑わいながら楽しい食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や何を残したのかを毎食確認している。苦手な食べ物や禁忌食がある方にはバランスを考えて代替品も用意している。また、水分も時間を決めて全員に促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者に口腔ケアをすすめている。一人ひとりに合わせた声かけや見守り、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、傾向を把握して、一人ひとりに合わせた支援を行っている。できるかぎりトイレでの排泄や、排泄の自立を目指している。	排泄パターンや利用者の表情や行動を見ながら、トイレでの排泄を誘導している。特に食事の前後や就寝前などの誘導に留意し不安の軽減の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には乳製品、野菜、果物を毎日取り入れている。また、排便チェックを行い、個々に応じて水分補給や運動を促して、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯の計画はしているが、個々の希望に合わせて、いつでも入浴できる体制をとっている。	入浴は午前又は夕方時間帯で利用者の希望に合わせて対応している。時には仲の良い利用者同士で入浴したり、音楽を流したりして楽しみながら入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中を活動的に過ごしてもらえるよう、体操やレク活動を行い、夜間の安眠へと繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師資格を持つ職員が、薬の管理を行っている。個別のファイルで全職員が内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意分野を把握し、家事や畑仕事、歌やゲーム等、楽しみや達成感を味わえるような支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそって、できるだけ散歩や買い物、ドライブへ出かけている。また、家族や地域の方々に協力して頂き、一時帰宅や、遠方の家族のところへ外泊する等行っている。	散歩や買い物の機会を利用して外出しているほか、希望により種市の海浜公園や種差海岸、三戸のさくらんぼ狩りなど、ドライブを兼ねて遠出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方にはお金を管理して頂いている。管理が難しくなった方でも、手元に置くことで安心される場合は、家族に協力頂き、所持している。買い物の際は、なるべく本人が支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時、いつでも使用して頂いている。携帯電話をお持ちの方もいる。手紙も希望時に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬は床暖房と加湿器で温度と湿度を保っている。夏は簾や扇風機を設置している。自然の花を飾る等して、季節感を採り入れている。	花やレク活動で作った作品を飾られている食堂兼ホールでは、利用者が楽しく交流している様子が窺える。また廊下は広く天井には明かり窓が設置され建物全体が明るい雰囲気にある。東と西の両ユニットは自由に行き来ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファ、外を見ることのできる玄関付近に椅子を設置し、独りの時間を持ったり、気の合った人と過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族にご協力頂き、馴染みの物を使う、写真等を飾る等として一人ひとりが落ち着ける環境作りをしている。	テレビや馴染みの小物入れ等のほか、お茶道具を持ち込み趣味活動を楽しんでいる方など、その人らしい過ごし方のできる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置しバリアフリー構造になっている。また、必要時は福祉用具を活用し、安全で自立した生活を送れるよう支援している。		